

## 8/8～9新潟・福島豪雨災害ボランティア活動の報告

2011年8月12日、海老名災害ボランティアネットワーク会員 福田博  
神奈川災害ボランティアネットワークからの要請を受けて、新潟・福島豪雨災害ボランティア活動に参加してきました。海老名災害ボランティアネットワークからは、橋本代表と私が参加しました。

神奈川災害ボランティアネットワークが主催するボランティアバスは、参加者22名を乗せて、横浜市の神奈川県民活動サポートセンターを22時に出発しました。東北自動車道の佐野SA（サービスエリア）、那須高原SAで休憩し、郡山JCT（ジャンクション）で磐越自動車道に入り、西に進んで午前4時半には、上川PA（パーキングエリア）で時間調整して、阿賀野川の上流域にある阿賀町に入りました（午前7時過ぎ）。

阿賀町ボランティアセンターは統合で廃校になった小学校の体育館に設置されていました。既に、様々な団体がワゴン車、軽トラック、マイクロバス等で到着していました。大型バスは神奈川災害ボランティアネットワークのみでした。

阿賀町の災害ボランティアセンターの駐車場

ボランティアセンターには、一輪車やスコップなどの資器材が整えられていました。



旧小学校の体育館に設置されているボランティアセンター



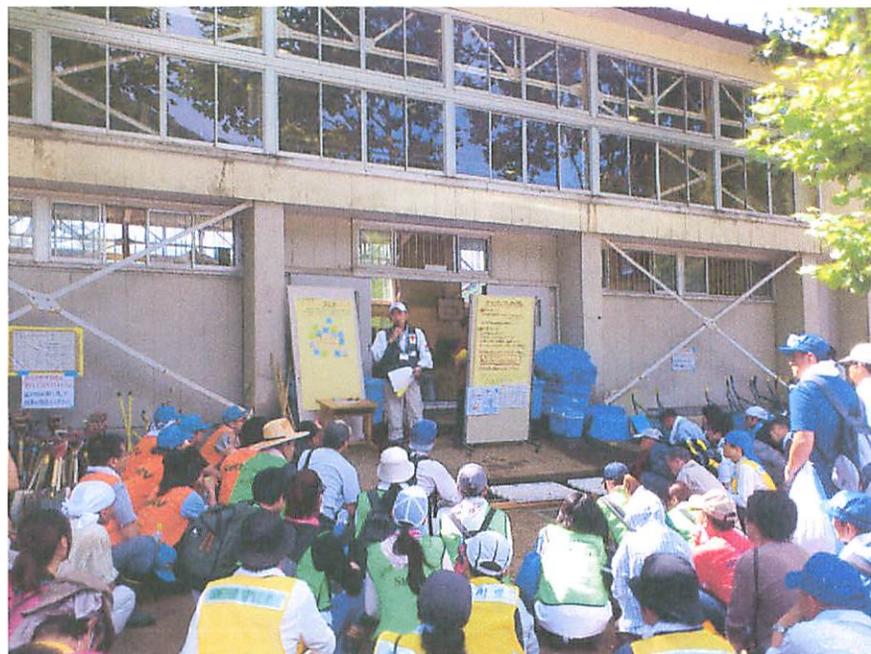
体育館の前で、集まったボランティア（150人くらい）に対して、阿賀町ボランティアセンター（町社会福祉協議会）から、あいさつがありました。被災された家屋や被災された方を撮影する場合には、必ず許可を得てくださいとの注意事項がありました。

#### ボランティアセンターの前で開催された朝のミーティング



次に、熱中症対策や怪我・事故に関する注意事項が、新潟県の赤十字のスタッフから述べられました。参加者の中には、被災地である東北3県のピブスを着けている人もいました。「支援された者が支援して返す」という「絆（きずな）」、昔の言葉でいえば「恩義に報いる」というものを感じ、熱い思いを感じました。（私は1946年、敗戦直後に生まれ、65歳になり、もはやボランティアとしては高齢者に属する者）ですが、そうした感情を職人であった父から受け継いでいます。）

#### 朝のミーティングで説明する赤十字のスタッフ



バスで作業現場である地区に移動し、家庭の庭先や外周、屋内などの泥だし作業を午前中と午後3時まで行いました。作業した家庭の方からもボランティアセンターからもペットボトルが支給され、水分補給を随時行いながら作業しました。泥が固まってきており、スコップは重く、35度を超える暑さの中で、作業はかなりの重労働でした。

泥で覆われた阿賀野川の河岸（作業現場の近く）



阿賀野川の支流で写真を撮る参加者



作業を終わり、ボランティアセンターに戻り、着替えをして帰りのバスに乗りました。阿賀町の新三川温泉で30分間だけお風呂に入りました（ボランティアは300円）。

帰りのバスの中で、参加者がそれぞれ感想を述べ、神奈川災害ボランティアネットワーク代表の植山さんが本日の行動の意義を語り、東日本大震災ボランティア・ステーションの高坂さんが、今後の災害ボランティア活動の方向についても多少触れる形で、まとめを行いました。帰路では、須賀川付近で渋滞に遭いましたが、無事に夜22時30分頃、横浜の県民活動センターに戻りました。